

くじら日記

太地町立博物館から



「鯨類と向き合っていると、不思議や疑問が沸き起こる」。そう言い、動物のお世話のかたわら行動観察や試料採取に走り回るのは、学芸員資格をもち「研究」も担当する飼育員、平松春香さん(29)です。

愛知県東海市出身の平松さんにとって動物は、物心ついたころから身近な存在でした。両親が獣医師として犬猫の動物病院を営み、また家でも猫やウサギなどを飼っていたからです。

ただ、水族館で見たイルカには、その慣れ親しんだ動物とは全く別の生き物のように感じられ、「哺乳類でありながら、なぜ、海に棲もうと思っただろう」となどと、鯨類の神秘にひかれていったそうです。

平成26年、平松さんは三重大学に進学し、3年次には鯨類の研究室に入りました。ゼミを通して鯨類学の基礎を学ぶと同時に、自身の研究テ

飼育員の思い④



バンドウイルカの形態を調査する平松春香さん

マをどうするかについても思考を巡らせました。「野生よりも近くで鯨類を観察できる飼育のフィールドがいい」と

マをどうするかについても思考を巡らせました。「野生よりも近くで鯨類を観察できる飼育のフィールドがいい」と

マをどうするかについても思考を巡らせました。「野生よりも近くで鯨類を観察できる飼育のフィールドがいい」と

マをどうするかについても思考を巡らせました。「野生よりも近くで鯨類を観察できる飼育のフィールドがいい」と

「教科書通りいかない」面白さ

「なんとか、研究で役立てられないか」と思い立ち、研究テーマは「母子の行動」に着目しました。簡単に

「なんとか、研究で役立てられないか」と思い立ち、研究テーマは「母子の行動」に着目しました。簡単に